- ・肯定的評価・・・A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる☑
- ・否定的評価・・・C：あまりあてはまらない D：全くあてはまらない
- ・増減・・・1学期実施したアンケート結果と比較した増減

(%)

I. 生活面について

	質問項目	肯定的評価		否定的評価		分からない	
		2学期	増減	2学期	増減	2学期	増減
1	お子さんは、学校生活を楽しく過ごせている。	85	4	10	-8	4	4
2	お子さんと、家庭であいさつ（おはよう、ただいま、おやすみなど）をし合っている。	92	1	4	-5	2	2
3	日南中の生徒は、校外で地域の人と出会うと自分からあいさつをしている。	71	18	23	-12	4	-9
4	お子さんは、毎日、歯磨きをしている。	94	5	6	-5	0	0
5	お子さんは、「早寝、早起き、朝ご飯」（生活リズム）が身についている。	71	2	29	-2	0	0
6	お子さんは、公（おおやけ）の場に適した会話や行動ができています。	85	5	13	-6	2	0
7	お子さんは、メディア（ケータイ、スマホ、ゲームなど）は家庭で約束を決めて時間をコントロールできている。	40	-2	60	4	0	-2
8	お子さんは、生活の中で自分の気持ちや考えを相手に伝えることができています。	65	1	31	-3	4	2
9	お子さんは、周りに流されることなく、自分が正しいと思った言動を行うことができます。	65	-3	25	-6	10	9
10	お子さんは、困りごとや悩みごとを相談できる友達がいる。	79	16	13	-8	8	-8
11	先生方は、悩んだり困ったりしている生徒の相談にのったり助言したりしてくれる。	60	0	21	-3	19	2
12	先生方は、生徒をよく見てくれている。	73	13	10	-8	17	-5
13	お子さんは、地域の行事や活動に進んで参加している。	58	2	40	-4	2	2
14	私は、お子さんと、学校であったことをよく話します。	73	-3	27	3	0	0
15	私は、お子さんの学校の事（学習・進路、生活・友達）について、よく相談にのっている。	69	-6	27	2	4	4
16	私は、お子さんのよいところを認めたり、ほめたりしている。	94	5	6	-3	0	-2

・保護者も教職員も、多くの生徒は学校生活を楽しく過ごしていると思っておりますが、そうでない生徒への配慮や対応を意識した取り組みも大切にしていきたい。

・家庭であいさつをし合っている割合は92%と高いが、家以外でのあいさつは十分にできていないと地域からの声もある。引き続き、大人から進んであいさつをしたり、あいさつの大切さなどを伝えていきたい。

・メディアの使い方については、課題意識をもっておられる保護者の割合が少し増加している。家庭でのルール作りなど、学校と家庭が連携をして正しい使い方について指導していきたい。

・自分の気持ちや考えを相手に伝えたり、周りに流されることなく自分が正しいと思った言動をとることができることについては、前回同様、保護者も教職員も課題意識があり、コミュニケーション力を高めるとともに、善悪の判断と勇気をもった行動がとれるように指導していきたい。

・困りごとや悩み事を相談できる友だちがいるかは、保護者は約80%が肯定的な回答をしているが、教職員は約59%と低く、丁寧な実態把握や教職員も相談にのれるような関係づくりを普段から築いておくことが大切である。

・悩んだり困ったりしている生徒の相談にのったり助言をしていると肯定的な回答をした教職員は約90%いたが、保護者の肯定的な回答は前回と同じく約60%で乖離がみられる。また、生徒のことをよく見て対応しているかという質問に対しても、保護者の肯定的な回答は73%と前回より少し高くなったが、引き続き、生徒一人ひとりをよく理解し適切な対応に心がけていきたい。

II. 学習面について

1	お子さんは、進んで学習に取り組んでいる。	67	12	33	-10	0	-2
2	お子さんは、宿題等、提出物の期限を守っている。	77	12	17	-7	6	-5
3	お子さんは、宿題・予習・復習・テスト勉強など、計画的に家庭学習に取り組んでいる。	60	13	38	-12	2	-2
4	お子さんは、わからないところを人に聞いたり、復習したりして、解決している。	67	18	29	-11	4	-5
5	先生方は、わかる授業づくりや、勉強の仕方のアドバイスをしてくれている。	63	13	10	-0	27	-11
6	先生方は、学ぶ楽しさ（新たな事ができたり、理解したり）を体験させてくれている。	50	10	17	0	33	-8
7	先生方は、子どものよいところを認めたり、ほめたりしてくれる。	75	15	8	-4	17	-11
8	お子さんは、自分の将来や夢について考えることがあった。	71	4	27	-4	2	0
9	お子さんは、学校生活（学習・行事・部活動）で友達と関わり合い、高め合うことができています。	81	5	15	-2	4	-3

- ・授業の準備をする、時間を守る等の学習規律や学習への主体性・自主性に課題がみられていたが、少し改善が見られるようになった。日々の積み重ねや授業改善等、学校全体での共通の取り組みが成果として現れていると考えられる。
- ・計画的な家庭学習に取り組んでいるかは、肯定的な回答をした保護者は60%、教職員は30%とかなり格差が見られる。家庭と連携した取り組みと家庭学習のやり方等の指導はもちろん、学習の必要性なども丁寧に説明していくことも大切である。
- ・生徒が分かる授業づくりや勉強の仕方のアドバイスをしているかは、保護者の63%、教職員の65%が肯定的な回答をしており、保護者の割合が高くなった。しかしながら、生徒へのアンケート結果では肯定的な回答がかなり低くなった学年もあり、生徒の実態をもとに、さらに教材研究や分かる授業づくり等に努めていきたい。
- ・先生方は、生徒のよいところを認めたり、ほめたりしているという肯定的な回答をした保護者は75%、教職員は89%と保護者の割合が高くなった。しかしながら、自尊心や自己肯定感の高まりに繋がっていない現状もあり、引き続き、全教職員でほめたりよいところを認めたりすることで、自尊心や自己肯定感を高めていきたい。
- ・生徒は、自分の将来や夢について考えることがあるかについて、肯定的な回答をした保護者は71%、教職員は53%と両者とも増加した。進路指導や高校調べ、ふるさとキャリア教育等の取り組みの成果が現れたと考えられる。今後も、機会を見つけ、自分の将来や夢について考えさせる時間を作っていきたい。

III. 目指す生徒像について	肯定的評価		否定的評価		分からない	
	2学期	増減	2学期	増減	2学期	増減
1 お子さんは、目標に向け、自分の学力を伸ばそうと自ら努力を続けている。	67	-1	33	2	0	-2
2 お子さんは、周りの人を気遣った声かけや、思いやりのある関わり（行動）がとれている。	69	-9	19	6	13	3
3 お子さんは、勉強や部活など、難しいことも最後まであきらめず取り組もうとしている。	75	6	25	-4	0	-2
・目指す生徒像の各質問には、教職員も保護者も肯定的な回答をしている割合はそれほど高くなく、日頃から、様々な活動の中での声かけや出来たときの達成感を感じさせる声かけを行うなど、目指す生徒像についての意識づけをしていくことが大切である。						

IV. 学校の取組について

1 学校は、教育目標や身につけてほしい力などわかりやすく伝えている。	52	-8	13	2	33	4
2 学校は、生徒や親の願い、思いを聞こうと心がけ、丁寧に対応している。	58	-5	17	4	23	-1
3 学校は、学級便り、ホームページ、電話、家庭訪問などなどを通して学校の様子を伝えている。	79	-1	10	-2	8	1
4 学校や町の便りなどを通しコミュニティ・スクールの活動は伝わっており、地域としての子どもの育ちを支えている。	52	8	25	-2	21	-8
<ul style="list-style-type: none"> ・学校目標や身につけてほしい力などが十分に保護者に伝わっていない現状があり、ホームページや学校だより等を活用して伝えていきたい。 ・生徒や親の願い、思いを聞こうと心がけ、丁寧に対応していると肯定的に回答した教職員は94%で前回は下回った。また、保護者の17%は否定的な評価であり、引き続き、生徒・保護者に寄り添った対応や信頼関係づくりに努めていきたい。 ・学校だより、ホームページ、電話、家庭訪問等を通して学校の様子を伝えてもらっていると肯定的に回答した保護者は約80%と以前と変わりがなく、今後も、さらに様々な媒体を活用した情報発信に努めていきたい。 ・学校や町の便りなどを通してコミュニティ・スクールの活動は伝わっており、地域としての子どもの育ちを支えていると肯定的に回答した教職員は59%、保護者は52%で、依然と認知度の低さや取り組みの弱さが見られる。コミュニティ・スクール2年目となる来年度に向けて、保護者をはじめ教職員への更なる周知と、取り組みの充実を図る必要がある。 						

V. 学校との連携について

1 私は、学校からの便りや配布物には目を通している。	90	-3	10	3	0	0
2 私は、参観日や行事などできるだけ学校へ行くようにしている。	85	-5	15	5	0	0
3 私は、子どものことで心配なことやわからないことがあれば担任等に連絡するようにしている。	73	22	27	-20	0	-2
<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの便りや配布物等に目を通したり、参観日や学校行事などで学校に来られている保護者は依然90%以上おられ、多くの保護者が学校やお子さんの教育に関心を持たれている状況は変わらないが、人権教育参観日では参加者をもっと増やしたいと考えている。また、お子さんのことや分からないこと等があれば担任等に連絡をされている保護者は73%と、前回よりかなり多くなってきている。保護者との信頼関係づくりの成果が現れていることが考えられるが、引き続き、保護者のみならず生徒との関係づくりにも取り組んでいきたい。 						

VI. その他、学校へのご意見ご要望があればお書きください。 ★…学校より

- 〈1学期〉
- ・未だに落ち着いて授業に向かえない雰囲気があると聞いています。メリハリのある中学校生活を送れるようにしたいです。
 - ★授業によっても違いはありますが、落ち着いて授業に向かえる生徒は増えてきています。引き続き、全職員で声かけ等を行い、落ち着いて授業に向かえる雰囲気づくりやメリハリのある学校生活を送れるようにしていきたいと考えています。
 - ・それぞれの個性を認め合える、バカにしたりしない環境であってほしい。
 - ★お互いを認め合える人間関係づくりや人権教育の充実に取り組んでいきます。
 - ・授業中で理解できるためにも、小学校までの基礎を宿題等を出してやってほしい。
 - ★学習状況をきちんと把握し、必要に応じて対応していきたいと考えています。
 - ・小1～中3まで同じメンバーで過ごす子ども達です。ひとりひとりのカルテがあるでしょうから、ひとりひとりを見つめてほしい。
 - ★全職員で生徒理解を図り、生徒一人ひとりに寄り添いながら教育活動等に取り組んでいきたいと考えています。

- ・テスト期間の部活停止中にアフタースクールが今なくなり、子どもはこの時に分からない学習を家でするのではなく、このチャンスに先生と1対1で理解をしたいと思っています。授業中には、聞けない事もあるので、またアフタースクールをしてほしいです。
 - ★今年度は、アフタースクールとしては実施していませんが、テスト前部停期間中に家庭学習相談日を設けて、放課後にテストや学習に関する相談を受けるようにしています。学び続ける力の育成のためにも、生徒たちには家庭学習の定着やテスト計画表等を活用した学習を身につけてほしいと考えています。
 - ・学校生活でマスクの着用をやめてほしい。マスク依存症が深刻で、通常に戻れない所まできています。熱中症は脳に後遺症が残ります。今すぐ対処してください。
 - ★国や県から出されているガイドラインや県教委、地教委からの指導の下、場所・場面に応じたメリハリあるマスク着用を努めています。運動をする際や屋外で人との距離が十分に確保できるような場合（2m以上離れている）は、マスクの着用はしなくてもよいと指導しています。また、校舎内等ではマスクの着用をするようにしていますが、熱中症等、子どもに心配がある場合には個別に対応するようにしています。
 - ・もっと学校のホームページを更新してほしい。行事日程をカレンダーに記入してほしい。
 - ★生徒の様子や行事等は、授業中は日々更新をしています。行事予定も現在は更新するようにしています。
 - ・夏休み期間中、以前にあったサマースクールのような自習勉強が出来る環境(教室)を作っていただきたい。
 - ★今年度は、学年で補習をしたり、部活動ごとに勉強会をしたりしました。来年度以降は、自習等ができる環境づくりも検討していきたいと考えています。また、3年生には日野郡公設塾「まなびや縁側」の紹介をして参加者が増えました。
 - ・学校が朝、鍵が閉まっている時があります。何時から先生は来られるのでしょうか？また、冬には子どもが歩く所の雪かきがしてあるといいなと毎年思います。(運動靴で登校するので)
 - ★生徒が登校するまでに、日直の先生が鍵を開けるようになっています。再度、教職員に日直業務の確認等行っていきます。雪かきについては、教育委員会とも相談し、学校で対応できる場所は対応していきたいと考えています。
 - ・子どもが安心して学校に行ける環境をつくってほしいです。(一部の子どもの言動に対して、ストレスが高まっているように感じられる)
 - ★教職員一丸となって、安心・安全な学校づくりをしていきたいと考えています。様々な教育活動の中で、一人ひとりの言動が周りに及ぼす影響等についても考えさせることが必要であると考えています。
- 〈2学期〉
- ・友だち先生が良いことなのか？ 子どもたちに考えてもらいたいと思います。
 - ★生徒一人ひとりと信頼関係づくりを行っていくことは、学校生活や授業、部活動等を行っていく上で、とても大切なことであると考えています。生徒、教職員とも、相手や時と場所、その場の状況等を把握した上で、けじめのある接し方ができるようになることが必要と考えます。可能であれば、生徒に考えさせる機会も作っていただけると考えます。
 - ・教科によって、どうしても習熟（理解）度が違ってくるのは否めず、担当の先生は困難かと思いますが、個別の進捗度にも配慮いただきながら、フォローが出来ると思います。苦手から、不得意から、意欲の減退と負のスパイラルに陥らないためにも、分かる授業づくりに期待します。
 - ★学校全体で主体性や協働性を生かした分かる授業づくりに取り組んでいます。そのために、校内授業研究会等を行い、教員同士で指導力向上に向けた様々な取り組みも行っています。また、教科によっては、複数の教員で指導を行い、個別の対応ができるような体制も整えています。しかしながら、生徒一人ひとりの理解度や進捗度に配慮した指導の足りない所は放課後学習において個別対応したりしています。今後も、生徒の実態をしっかりと把握し、分かる授業づくりに努めて参ります。